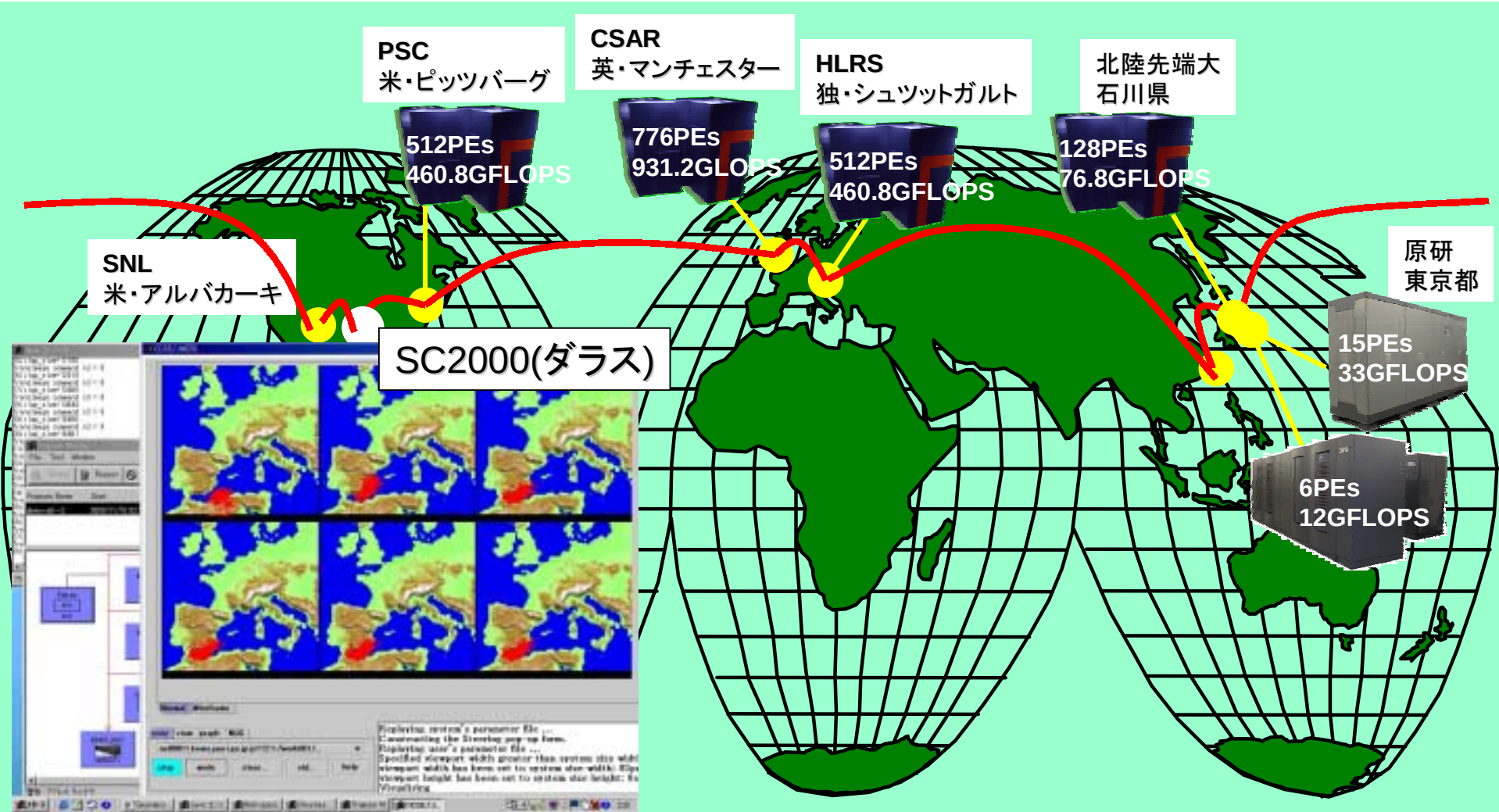
（補足資料）

新研究スタイルの芽生え
－コンピュータ結合（グローバル）－

SC2000国際会議
（2000年11月米国ダラス）

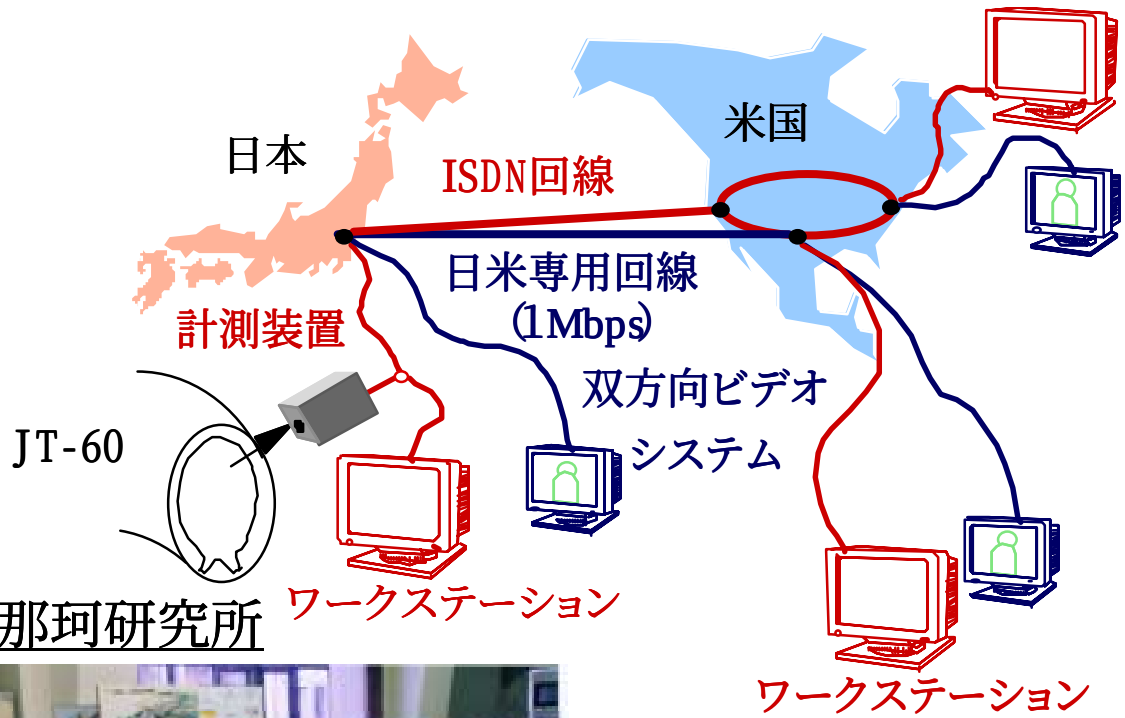
総CPU数：2629（うち516個使用）
理論性能値：2.7TFLOPS



（補足資料）

新研究スタイルの芽生え
－同分野結合－

計算機ネットワークを用いた
データ交換・遠隔実験参加



プリンストン大学

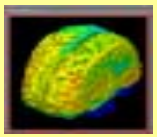
那珂研究所

ロスアラモス研究所

世界はさらに
身近に

（補足資料）

新研究スタイルの芽生え
－異分野結合－



計算結果を高精細
画像化して伝送

NTT東日本

GEMnet（33Mbps）

陽子ビームデータ

患部線量データ

スタンフォード大学、
テキサス大学

原研 関西研

粒子シミュレーション

高強度 T-cube
レーザー

ターゲット

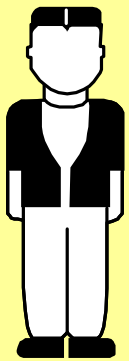
高エネルギー
陽子ビーム

どうしたら医療に最適な陽子ビーム
を発生できるか

モンテカルロ法シミュレーション

(患部線量計算)

高エネルギー
陽子ビームを
用いる癌治療



陽子ビームによる治療の効果を
定量的に推定